

知って得する 帯状疱疹の話

帯状疱疹（たいじょうほうしん）とは、子供の頃に罹患した水痘（すいとう）すなわち水ぼうそうのウイルス（VZV）が再活性化することで発症する病気です。

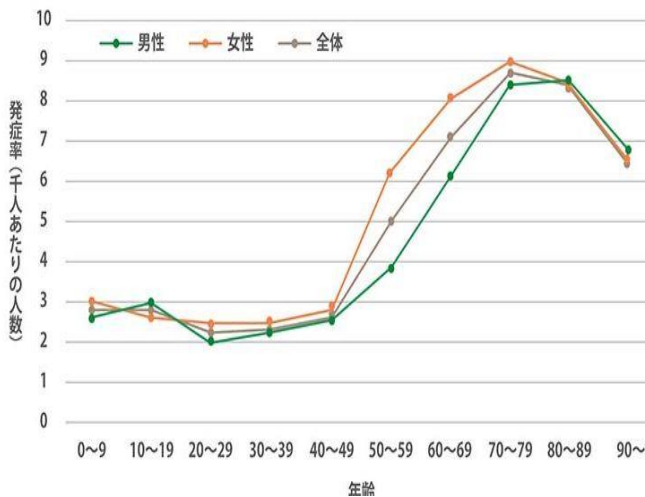
VZV は水痘が治癒した後、皮膚にのびてきている知覚神経を伝って、背骨に付随している神経根（脊椎後根神経節）にたどり着き潜伏します。水痘にかかったことがある人は全員、その状態になっていると考えられます。

水痘に対する免疫が完成すると二度と同じ病気を発症することはありませんが、一部の免疫（メモリーT細胞という水痘を記憶しているリンパ球）が低下すると、それまで眠っていたVZVが目覚め、神経を壊しながら増殖していくのです。

症状の現れ方には次のような特徴があります。体や顔の左右どちらかに、ピリピリ、チクチク、ズキズキといった神経痛が生じ、痛みの感じ方は個人差が大きいようです。そして数日後には痛みのある部位に赤い発疹が出て、初期段階では「虫さされ」「小さなおでき」「かぶれ」のように思われることが多い、進行すると発疹が小豆豆大位の水

ぶくれになり、体や顔の片側に帯状になって広がり、水ぶくれはやがて破れてただれかさぶたになります。

左のグラフのように発症率は五〇代から高くなり、年代が上がるにつれて増加する傾向にあります。このグラフは一九九七年〜二〇一一年に宮崎県で実施された帯状疱疹の大規模調査における発症率です。同調査では八〇歳までの三人に一人が帯状疱疹を経験すると推定されています。高齢になるほど発症率が高くなる要因の一つとして、



加齢に伴い免疫力が低下することと関係があると考えられています。

体の片側に起こる神経痛が帯状疱疹の最初のサインです。ぜひ覚えておいてほしいのが、傷みに加えて皮膚に発疹などが現れた場合には、三日以内に皮膚科を受診するという事です。帯状疱疹は早期発見、早期治療で後遺症なく治癒できる病気です。治療は抗ウイルス薬が中心で、外来での内服または入院での点滴が行われます。症状にきづいたのが週末だった場合は、土日も診療している医療機関や救急外来などを受診することをお勧めします。

予防方法は疲れやストレスをためない生活をする事です。また五〇才を過ぎたらワクチン接種も発症や重症化を防ぐうえで効果的です。

天峰建設の情報・画像がQRコードで見られます

株式会社天峰建設
TENPO CONSTRUCTION